ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　100　号
２０１１．７．20

目　次

就任にあたって……1
2011年度　北海道考古学会第48回総会略報……1
2011年度　北海道考古学会研究大会報告……7
遺跡見学会のご案内……8
月例研究会のお知らせ……8
事務連絡……9
入会者のお知らせ……9
会費納入についてのお願い……9
会誌編集委員会からのお知らせ……9
その他……10

就任にあたって

会長　小杉　康（北海道大学大学院）

前任期に引き続きもう２年、会長の任にあたらせていただきます。次期の委員の改選の年は本学会の創立50周年の節目にあたります。この２年間はその記念行事に向けての準備期間ともなりますが、気負うこと無くこれまで通りの着実な歩みを受け継いでゆきたいと思います。前回、会長に選出された際のこのご挨拶では、遺跡の保護・保存にむけての取り組みと、若い世代の育成を目指した月例研究会の活発化との二つを、ささやかな抱負として述べさせていただきました。前者については、毎月実施される運営委員会にあわせて、地域委員から担当地域の情報を寄せていただき、年度末にその動向をまとめるといった道筋ができてきました。後者については、その名の通りに月例で開催できるようにまでなりましたが、北海道といった広大さもあって、研究会に集える会員の方々にはそれなりの負担が生じてしまいます。今期からはこの点もさらに工夫し、より活発な会合にしたいと思っております。

現在、会員数約360余名を擁しており、地域の学会としてはそれなりに大所帯になってまいりました。既定の行事や活動も、これまでに培われてきたノウハウで難なくこなして会の運営が行われておりますが、その実、今回も委員改選にあたっては運営委員や地域委員等の選出に大変な苦労がありました。考古学に対する社会的な価値観の変化や、情報技術の長足の進展、専門職の世代交代の沈滞化など、これらの状況にあって学会として、また一人の考古学に携わる者として、いかなる身の振り方をするべきなのか、50周年を間近に控えるこの時期に、会員の皆様と一緒に考えて行きたいと思います。

2011年度　北海道考古学会第48回総会略報

４月23日(土)13時より北海道大学学術交流会館にて本年度の定期総会が開催されました。会員数363名に対して本人出席43名、委任状出席91名、合計134名と、総会成立の要件である会員数の３分の１以上の出席を得たため、総会は成立いたしました。議長には第８地区の山原敏朗会員を選出し、下記の議案について審議されました。

この結果、下記の原案どおり承認されましたので報告いたします。

第１号議案　2010年度会務報告

(1) 事業報告

ア　第47回総会・研究大会

期　　日：2010年４月24日

場　　所：北海道大学　学術交流会館
総　　会：2009年度会務報告、2010年度会務計画案（いずれも承認）
研究大会：テーマ「オホーツク文化とは何か」

イ　運営委員会

（回数）	（開催日）	（主たる議題）
第１回	５月30日	月例研究会・遺跡見学会・だよりなど
第２回	６月27日	遺跡見学会・だより・会誌など
第３回	７月25日	遺跡見学会・会誌編集・月例研究会など
第４回	10月10日	遺跡報告会・だよりなど
第５回	10月31日	会誌編集・遺跡報告会・研究大会など
第６回	11月28日	遺跡報告会・研究大会など
第７回	１月30日	研究大会・だより・総会など
第８回	２月27日	研究大会・総会・会誌編集など
第９回	３月23日	総会・研究大会など

ウ　月例研究会

第１回　期　日：５月30日（北海道大学総合博物館共同利用研究室）
　　発表者：高橋理氏（千歳市埋蔵文化財センター）
　　テーマ：「出土動物からみるアイヌの儀礼」
第２回　期　日：６月27日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W104）
　　発表者：鈴木建治氏（北海道大学）
　　テーマ：「旧石器時代における住居構造の復元に関する基礎的研究」
第３回　期　日：７月25日（江別市郷土資料館）
　　発表者：佐藤一志氏（江別市郷土資料館）
　　テーマ：「戦前における江別市内の発掘調査資料」
第４回　期　日：10月10日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
　　発表者：榊田朋広氏（札幌市埋蔵文化財センター）
　　テーマ：「トビニタイ式土器研究の現状と課題」
第５回　期　日：10月31日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
　　発表者：札幌稲北高等学校自然科学部地学班
　　テーマ：「余市栄町７遺跡における砂質堆積物の特性から古環境を探る」
第６回　期　日：11月28日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W104）
　　発表者：清水香氏（國學院大学大学院）
　　テーマ：「擦文・アイヌ文化期の出土木製品における和産物について」
第７回　期　日：１月30日（北海道大学総合博物館中会議室）
　　発表者：坂本尚史氏（財団法人北海道埋蔵文化財センター）
　　テーマ：「ホロカ沢Ⅰ遺跡出土の幌加型細石刃核石器群の様相」
第８回　期　日：２月27日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
　　テーマ：『卒論・修論発表会』
　　発表者：山添晶久氏（北海道大学学生）
　　テーマ：「石狩低地帯における縄文晩期前葉の土器群構成」
第９回　期　日：３月27日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
　　発表者：西田茂氏（財団法人北海道埋蔵文化財センター）
　　テーマ：「石狩低地帯南部における遺跡の形成と水位の変動」
　　「年代測定値のこと－研究の現状と課題－」

エ　遺跡見学会

期　日：８月21日～22日
場　所：函館市・木古内町・七飯町
テーマ：縄文文化にふれる道南の旅
参加者：63名

オ　遺跡調査報告会

期　日：12月25日
場　所：北海道大学学術交流会館講堂
内　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑

カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

97号：７月16日発行
98号：12月３日発行
99号：２月21日発行

キ　学会ホームページ

2011年３月まで（12ヶ月間）アクセス数：約2,750、更新回数：30回

ク　会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第47輯の発行（2011年３月発行 500部）

ケ　特別委員会の活動

遺跡保護特別委員会
国際交流特別委員会

（2）収支決算報告

収　入

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,300,000	1,828,642	528,642	5,000円×364件、3,500円×２件、1,642円×１件
事業収入	研究大会収入	120,000	144,000	24,000	研究大会資料集販売 1,000円×144部
	遺跡見学会収入	400,000	853,600	453,600	
	遺跡調査報告会収入	120,000	86,000	▲ 34,000	遺跡調査報告会資料集販売 1,000円×86部
	会誌等販売収入	180,000	260,860	80,860	会誌・資料集販売
	小　計	820,000	1,344,460	524,460	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		488	4,505	4,017	2010研究大会懇親会残金・北洋銀行利息
繰越金		1,332,512	1,332,512	0	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特会収入	特別会計収入	0	0	0	
合　計		3,453,000	4,510,119	1,057,119	

支　出

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	500,000	326,400	173,600	資料集印刷・講師費用弁償等
	遺跡見学会費	300,000	724,624	▲ 424,624	貸し切りバス等／振込み手数料
	研究会費	20,000	0	20,000	案内発送、研究会共催費
	遺跡調査報告会費	300,000	185,030	114,970	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	1,200,000	657,090	542,910	第47輯　500部／振込み手数料
	だより印刷費	160,000	134,520	25,480	97号・98号・99号／振込み手数料
	ホームページ費	50,000	29,457	20,543	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　計	2,530,000	2,057,121	472,879	

事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	30,000	24,120	5,880	特別委員会費含む
	消耗品費	50,000	7,155	42,845	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	200,000	164,724	35,276	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃金	50,000	45,000	5,000	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小計	335,000	240,999	94,001	
特別支出		20,000	6,000	14,000	日本考古学協会図書交換会申込み費用
予備費		568,000	0	568,000	
合計		3,453,000	2,304,120	1,148,880	

2010年度決算

項目	費目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(B−A)	備考
	収入総計	3,453,000	4,510,119	1,057,119	
	支出総計	3,453,000	2,304,120	▲1,148,880	
決算額差引	収入総計(B)ー支出総計(B)			2,205,999	

2010年度北海道考古学会基金会計

項目	費目	支出額	基金積立額	基金総額	備考
基金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏・斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構氏寄付金		20,000	860,000	2005年5月29日10,000円送金 2006年3月22日10,000円入金
	宮下氏寄付金		10,000	870,000	2008年3月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
合計				1,070,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		993,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	160,000		833,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	60,000		773,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		533,000	
合計		537,000			
基金残高				533,000	

(3) 監査報告

北海道考古学会の2010年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2011年4月13日　監査委員　菊池　俊彦　㊞
2011年4月17日　監査委員　羽賀　憲二　㊞

第2号議案　2011年度会務計画

(1) 事業計画案

ア　基本方針

① 北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。
② 考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。
③ だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。
④ 会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

イ 2011年度事業計画

① 研究大会

期　　日：2011年４月23日（土）　10：00-17：00
場　　所：北海道大学学術交流会館講堂
テ ー マ：「北海道の縄文文化研究の今」
事例報告：山原敏朗氏・福田裕二氏・石橋孝夫氏・國木田大氏・西脇対名夫氏・関根達人氏
討　　論：司会　小杉康氏

② 遺跡見学会

期　　日：８月予定

③ 遺跡報告会

期　　日：2011年12月17日（土）
場　　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W101

④ 月例研究会

開　　催：年９回
時　　期：５月、６月、７月、９月、10月、11月、１月、２月、３月（予定）

⑤ 特別委員会の設置

「遺跡保護特別委員会」
「国際交流特別委員会」

⑥ 会誌「北海道考古学」第48輯の発行

発　　行：年１回
時　　期：2012年３月　500部発行

⑦ 連絡誌「北海道考古学会だより」の発行

発　　行：年３回（第100号、第101号、第102号）
時　　期：７月、11月、３月

⑧ ホームページの管理運営

（2）2011年度予算案

収　入

項　目	費　目	2011年度予算額(A)	2010年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,300,000	1,828,642	▲ 528,642	5,000円×260件
事業収入	研究大会収入	120,000	144,000	▲ 24,000	資料代 1,000円×120部
	遺跡見学会収入	240,000	853,600	▲ 613,600	4,000円×60名（貸切バス２台）
	遺跡調査報告会収入	100,000	86,000	14,000	報告資料集売り上げ　1,000円×100部
	会誌等販売収入	200,000	260,860	▲ 60,860	
	小　計	660,000	1,344,460	▲ 684,460	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		1	4,505	▲ 4,504	
繰越金		2,205,999	1,332,512	873,487	
基金繰入金		0	0	0	
特会収入		0	0	0	
合　計		4,166,000	4,510,119	▲ 344,119	

支　出

項　　目	費　　目	2011年度予算額(A)	2010年度決算額(B)	増 ▲減	備　　考
事業支出	研究大会費	400,000	326,400	73,600	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	200,000	724,624	▲ 524,624	貸し切りバス等／振込み手数料
	研究会費	20,000	0	20,000	案内発送、研究会共催費
	遺跡調査報告会費	300,000	185,030	114,970	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	1,000,000	657,090	342,910	第48号　500部／振込み手数料
	だより印刷費	160,000	134,520	25,480	100号・101号・102号／振込み手数料
	ホームページ費	50,000	29,457	20,543	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　　計	2,130,000	2,057,121	72,879	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	30,000	24,120	5,880	特別委員会費含む
	消耗品費	50,000	7,155	42,845	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	200,000	164,724	35,276	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃　　金	50,000	45,000	5,000	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小　　計	335,000	240,999	94,001	
特別支出		20,000	6,000	14,000	
予備費		1,681,000	0	1,681,000	
合　　計		4,166,000	2,304,120	1,861,880	

2011年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏･斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構氏寄付金		20,000	860,000	2005年５月29日10,000円送金 2006年３月22日10,000円入金
	宮下氏寄付金		10,000	870,000	2008年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
合　　計				1,070,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		993,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		833,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		773,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		533,000	
合　　計		537,000			
基　金　残　高				533,000	

第３号議案　運営委員・地域委員・会誌編集委員・監査委員の改選について

北海道考古学会会則第６条および規則２－１第２条・第３条および細則３－２に基づき、運営委員、地

域委員、会誌編集委員および監査委員について、会員による推薦と投票の結果、以下のように改選を行います。

運営委員

小杉康（再任：会長）、大谷敏三（新任：副会長）、荒山千恵（再任：総務）
小針大志（再任：会計）、佐藤一志（再任：研究会）、芝田直人（再任：見学会）
高橋理（再任：会誌、だより）、高倉純（再任：総務、研究会）、広田良成（再任：報告会）
宗像公司（再任：報告会）、青野友哉（新任：見学会）、内山幸子（新任：会誌、だより）

地域委員

第３地域：乾芳宏、第４地域：野村祐一、第５地域：奈良智法、第６地域：山谷文人
第７地域：角達之助、第８地域：高橋勇人、第９地域：関根達人、第10地域：佐藤孝雄

会誌編集委員

１号委員　上野修一（再任：委員長）、石川直章（再任：副委員長）、仙波伸久（再任）
守屋豊人（再任）、阿部明義（新任）
２号委員　内山幸子（新任）、高橋理（新任）

監査委員

羽賀憲二（再任）、千葉英一（新任）

2011年度　北海道考古学会研究大会報告

今研究大会は『北海道の縄文文化研究の今』をメインテーマに６名による研究発表とディスカッションが行われ、北海道の縄文文化研究の現時点における成果と今後の研究の方向性を探った。山原敏朗氏「旧石器から縄文へ－大正３遺跡の評価－」では、北海道における縄文時代草創期の存在が確かめられ、更新世末期の本州文化が存在したと考えた。ただし、これが北海道全域におよんだのか、更新世から完新世へと連続したのかなど残された課題は多く、北海道の旧石器文化の位置づけとも関わって今後も議論を要すると指摘した。

福田裕二氏「北海道における盛土遺構研究の現状」では、多くの遺構名称が明確な定義付けの不備を示すと指摘した上で、42例を集成しつつ時期毎の遺構のあり方や立地、形状、関連する遺構等の特徴から類型化を試みた。今後「盛土遺構」の定義付け、遺構形成の目的による厳密な分類を確立し、明確な類型化の作業がなお必要であることが再認識された。

「北海道縄文人によるサケ資源の集約的利用の確立・展開－石狩紅葉山49号遺跡の評価－」の石橋孝夫氏は、縄文中・後期の19カ所にのぼる杭列が、遡上魚類の定置式漁労施設であり、旧発寒川の流路更新の度に改修が行われたことを示すとした。また、直線や上流に向く「逆ハの字」構造が、アイヌのサケ捕獲施設「テシ」や「ウライ」と共通する点を指摘。さらにたたき棒、銛、大型のタモ（枠）、松明などともに、これがサケ類の捕獲施設であると判断した。以後続縄文から近世までの河川設置カ所の変動の背景は、道外地域との交易という枠組みを探る上で重要な視点となる。

國木田大氏による「北海道における縄文時代年代研究の現状と課題」では、北海道における年代測定研究をたどりつつその課題が提示された。海洋リザーバ効果、暦年較正、ウイグルマッチング法が取り入れられる一方で、実験処理やデータ解釈の議論が少ないこと、また特に海洋リザーバ効果の北海道資料への適用基準などが今後克服すべき検討事項であると指摘された。

西脇対名夫氏は「形態学的な方法－“謎”の側縁有溝石器の場合－」をテーマに、側縁有溝石器をモデルとして形態学的アプローチの一方法を示した。「論理以前の行為」や「論理以前の法則性」が無文字社会の遺物を対象とすることに「意味」をもたせることになる。側縁有溝石器は視覚的情報によって中期前葉の石冠を起源とする可能性が示された。

「東北地方からみた北海道の縄文晩期」の発表において関根達人氏は、続縄文文化と弥生文化の分岐点が何処に求められるかについて、縄文晩期における北海道と北東北間の交流、道内地域集団間の交流に視座をおきつつ土器の比較検討を行った。縄文後半に北海道で亀ヶ岡式の様相が強まるが、晩期末葉では両地域の遺跡数や土器の様相が相互に異なり、それまで両地域の一体性が失われていた可能性が指摘された。これを北東北における稲作受容への胎動ととらえることの是非は当初の問題点に立ち帰ることにつながり、土器以外の面からの検討を今後の方向性とした。

その後の討論では、各発表者の事実確認や会場との活発な議論が展開し、北海道の縄文文化研究の課

題の把握と今後の研究の方向性を確認することができた。

遺跡見学会のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度は「噴火湾の貝塚とだて噴火湾縄文まつり」をテーマとして、登別市・伊達市・洞爺湖町の遺跡・資料館を巡る計画で準備中です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

期　　日　８月28日（日）　雨天決行
集合場所　札幌駅北口（観光バス乗り場）　集合時間　８：00
※バスは北遊観光バスです
見学コース　ＪＲ札幌駅北口（８：00）⇒ 道央自動車道経由で登別市へ
⇒ 登別市のぼりべつ文化交流館カント・レラ
⇒ 伊達市北黄金貝塚・北黄金２遺跡 ⇒ 第14回だて噴火湾縄文まつり
⇒ 伊達市噴火湾文化研究所（縄文エコミュージアム） ⇒ 有珠６遺跡
⇒ 洞爺湖町入江・高砂貝塚
⇒ 道央自動車道経由で札幌市へ ⇒ ＪＲ札幌駅（18時頃到着予定）
※なお、天候･道路･現場の状況により行程を変更する場合がございます。ご了承ください。
参加費用　大人4,000円、中学生以下2,000円（バス代、保険料、入館料込み）
※当日申し受けます。
募集人数　先着順60名（予定）
申込方法　往復葉書かメールで。**電話受付は致しません。**
①往復葉書の場合
＜往信部表面＞　〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室気付
北海道考古学会事務局
＜往信部裏面＞　郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号を記入。
＜返信部表面＞　返信用の郵便番号・住所・氏名を記入。
＜返信部裏面＞　何も記入しないでください。
②メールの場合
hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jpに郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号を記入し、送信してください。
申込期限　８月17日（水）　当日の消印有効
キャンセル　葉書かメールで。８月24日（水）以降のキャンセルは、下記問い合わせ先にお電話ください。
問い合せ先　**平日の18：00～20：00のみ**。見学会担当：芝田（090-9087-6802）まで。
服装・お持ちいただく物　昼食・雨具は各自持参してください（昼食は縄文まつりの会場でも購入可）。また、歩きやすい服装・靴でお越しください。その他、帽子、常備薬、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧めいたします。

月例研究会のお知らせ

【報告】
第１回月例研究会
○日　時：６月26日（日）　15：00～16：20
○場　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W104号室
○発表者：渡辺陽子氏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）他
○テーマ：樹種同定から明らかにされる竪穴住居建築材の変遷
○発表者：岡村聡氏（北海道教育大学札幌校）
○テーマ：北海道の縄文～続縄文遺跡から出土する緑色玉類の多様性

【今後の予定】

第２回月例研究会

○日　時：７月31日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学総合博物館中会議室
○発表者：上屋眞一氏（恵庭市教育委員会）
○テーマ：ユカンボシＥ11遺跡の調査－矢柄と一括石鏃について－
○発表者：菅野修広氏（登別市教育委員会）
○テーマ：あの世の認識－アフンルパルから考える埋没途中竪穴住居について－

第３回月例研究会

○日　時：９月25日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517
○発表者：藪下詩乃氏（有限会社アルケーリサーチ）
○テーマ：彫器の使用痕分析－美利河１遺跡Ｉ石器群の事例－
○発表者：役重みゆき氏（東京大学大学院人文社会系研究科）
○テーマ：蘭越型細石刃石器群の技術構造と適応戦略（仮題）

第４回月例研究会

○日　時：10月30日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学総合博物館中会議室
○発表者：増田隆一氏（北海道大学大学院理学研究院）
○テーマ：北海道のＤＮＡ考古学：その発展性と課題

第５回月例研究会

○日　時：11月27日（日）　15：00～
○場　所：北海道大学総合博物館中会議室
○発表者：林勇介氏（湧別町教育委員会）
○テーマ：擦文文化における竪穴住居跡の様相－道東の遺跡を事例に－（仮題）
○発表者：簑島栄紀氏（苫小牧駒澤大学）
○テーマ：平安日本と擦文社会（仮題）

※日時、場所などの詳細は、決定次第、北海道考古学会ホームページでお知らせいたします。
※会員の皆様で、月例会での研究発表を希望する方は北海道考古学会事務局（hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp）までご一報ください。

入会者のお知らせ

≪新入会員≫※五十音別・敬称略
天方博章（厚真町）、久保義則（神奈川県）、熊林佑允（帯広市）、澤田恭平（釧路市）
関根達人（青森県）、冨樫那美（神奈川県）、時田則雄（帯広市）、林勇介（湧別町）

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770－６－8358　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　　（学生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌第48輯の原稿を募集しています

『北海道考古学』第48輯（2012年３月刊行）への積極的なご投稿をお待ちしております。論文、研究ノー

ト以外にも、資料紹介、書評なども歓迎いたします。
原稿の締め切り日は以下のとおりですが、投稿を希望する方は、編集の都合上、11月５日(土)までに会誌編集委員会事務局まで連絡をお願いいたします。原稿の分量・体裁等は、『北海道考古学会だより』第95号（2009年12月）及び学会ホームページをご参照ください。
なお、今年度から会誌編集委員会の事務局は下記に変更になりましたので、よろしくお願いいたします。

原稿締め切り日　2011年12月24日(土)(必着)

会誌編集委員会事務局　〒066-0001　千歳市長都42番１
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター（担当：高橋理）
TEL　：0123-24-4210
E-mail：osamu.takahashi@city.chitose.hokkaido.jp

その他

〔特別委員会について〕
今年度特別委員会について以下のように決定しましたのでご報告致します。
遺跡保護特別委員会　委員長　臼杵勲氏　　２号委員　宗像公司

〔だよりの訂正について〕
だより第99号に掲載された西脇対名夫氏の投稿「「土面」の唇の孔」に文献と画像複製許諾表示の脱漏がありました。下記のとおり訂正させていただきます。
（誤）道内では後晩期および続縄紋式の合葬墓がかなり多く見られる。
（正）道内では後晩期および続縄紋式の合葬墓がかなり多く見られる（藤原2010ほか）

（誤）図３　東京国立博物館画像アーカイブ
（正）図３　東京国立博物館画像アーカイブ(同館所蔵重要文化財「土面」 Image：TNM Image Archives Source：http://TnmArchives.jp/)

引用・参考文献の追加
藤原秀樹2010「北海道北部の縄文集落の葬墓制」雄山閣編集部編『葬墓制』シリーズ縄文集落の多様性Ⅱ　雄山閣　19～50頁

北海道考古学会だより　第100号　2011年７月20日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒062-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX：(011)706-4000
E-mail　：hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668－1131